

増田裕一 委員

ちょっと他の委員からの重複もありますので、ポイントを絞って、3点ほど質問をしたいんですけども、先ほど他の委員からもありましたけれども、防災無線については、私も、8月31日、9月6日、7日と、外でいろいろとお祭りなど手伝いをしておりまして、大変な雨の音に防災無線がかき消されたような状況も目の当たりにしましたので、その点はよろしくお願ひしたいと思います。

では、防災関係事業の実施状況について、先ほどちらりと、実施状況の中での傾向の部分が課長のほうからも解説がございましたけれども、日曜日に開催している阿佐ヶ谷と桃井第三小学校に関しては非常に参加者数が多いと思うんですけども、この点に関しては、曜日の部分ではどのようにお考えでしょうか。

防災課長

ご指摘のように日曜日、土曜日とか、そういうときにやればお客様はかなり来るのかなというふうに思いましたけれども、それは来年の課題としまして、今年度はこういった平日もちょっとやってみたというところがございます。

増田裕一 委員

私も別のところで起震車などに乗ってみたことがありますけれども、やっぱりすごい震度なんですよね。それを経験して、家具の転倒防止の器具を買ったりですとか、また耐震診断に応じたりという部分にいかにつなげていけるかというところだと思いますので、ぜひ無関心な、関心の薄い方に向けてのアピールというところをお願いしたいと思います。

では、耐震改修の促進計画について何点かお尋ねしたいんですけども、まず、学校の施設の耐震化の状況というのを見ていて大変深刻だと思うのが、Is値0.3未満と評価されたB-2の部分が体育館に多いというのが非常に気になるんですけども、やはり震災救援所として体育館は、住民の方がもしものときに避難してくる施設だと思うんです。B-2の部分、4校が21年度に応急補強するというふうになっていますが、この応急補強に関しては、震度はどれくらいまでのものに耐えられるのでしょうか。

営繕課長

体育館の補強ですが、壁の筋交いを基本的には4力所ほどつけ足すということで、いわゆる耐震の基準の0.6をはるかに上回る数字が各校出ております。そういう意味では、非常に軽易な、軽い構造体でございますので、基本的に我々、学校施設は0.75をIsの数値としては基本目標に置いてございますので、その程度まで引き上げていくというような形で、これから設計を行っていくということになります。

増田裕一 委員

ある程度の強度、強くしていこうということなんですけれども、応急補強となっておりますけれども、これはあくまでも応急補強なのか、それとも、いろいろと学校の適正配置という問題もありますけれども、そこら辺の部分は、教育委員会のほうではどのように考えていらっしゃるのか。

営繕課長

応急補強というふうに言っておりますが、基本的には補強のやり方と何ら変わるところはございません。ただ、今回そういうふうに出てきたものにつきましては、本体校舎のほうで若干課題があって、診断の結果、改築が望ましいといったような診断結果が出ておりましたが、直ちに改築するというわけにはいきませんので、子どもの安全を確保するというのが最大の目標でございますので、当面補強をしていくということでございます。

学校適正配置担当課長

ご質問に適正配置との関係も触れられておりましたけれども、適正配置につきましては、ご案内のとおり今年度、基本方針に立ち返った見直しをしているということでございます。

一方、学校施設の耐震化につきましては、先ほど来ご説明申し上げておりますとおり、児童生徒の安全を最優先に、今回こういった考え方で早期に取り組むということでございます。

増田裕一 委員

わかりました。

では、耐震補強に関連して、区の施設ということなんですけれども、これは区の施設ではないんですが、その地域地域の区民の方が利用する施設として、町会・自治会会館というのがあるんですけれども、これに関しては、木造住宅の耐震診断ですとか、ああいう枠組みの中でやっていくのか、それともまた別にご案内をしていくのかというのはどのようにお考えですか。

建築課長

これまで耐震診断、耐震改修につきましては、主に木造住宅あるいはマンション等で中心に進めてまいりましたけれども、これから対象を広げていこうというようなことを考えてございまして、そういった中で、そういった施設も対象にできるようにというふうには検討してございます。